

「気胸ホットライン」スタート

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

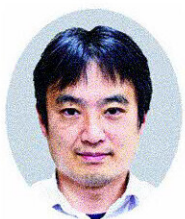
《 89 》

365日24時間、呼吸器外科の医師が直接電話相談に応じる「気胸ホットライン」が4月、県立中央病院でスタートした。気胸と診断した患者や、気胸を疑う症状のある患者らが利用できる。ホットラインを立ち上げた呼吸器外科の後藤太郎部長(43)は「日常生活の中で急に呼吸が難しくなったり、胸が痛くなったりした患者さんの不安

を解消する手助けをした」と話している。後藤部長によると、気胸は肺に穴が開いて、胸の中に空気が漏れる病気。肺上部にできる「ブラ」と呼ばれる風船状のものが破裂して発症し、呼吸が苦しくなったり、発症した側の胸が痛くなったりするなどの症状が出る。

ブラがなぜできるかは明確には分かっていないが、若年(20歳代)、やせ形、高身長男性が気胸になることが多い。喫煙経験があり、肺がもろくなってしまうという60歳代の男性も罹患の可能性が高い。

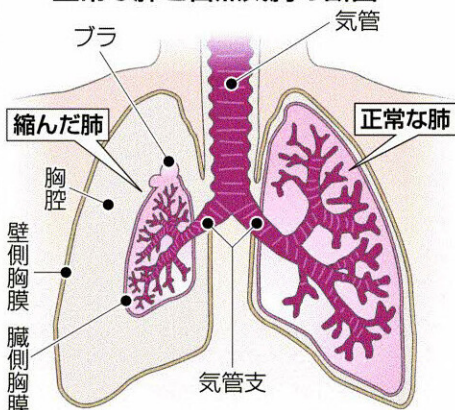
胸腔に漏れ出した空気を



後藤太郎
呼吸器外科部長

24時間対応で不安を解消

正常な肺と自然気胸の断面



プラが破れると肺の空気が胸腔に漏れ出して、肺がしぼんでしまう

を、管を通じて体外へ排出して自然治癒を待つか、胸に小さな穴を開けて行う胸腔鏡手術をする。自然治癒した場合の再発の可能性は30%。再発後、3度目に発症する可能性は70~80%に高まる。同科が行う独自手術は、再発率(全国平均は5~10%)を1%以下に抑えている。

ホットラインは、後藤部長に加え、同科の四方大地医師、中込貴弘医師が直接電話で問診し、必要に応じて迅速な治療を行う。遠方で同病院に来院

が困難な場合でも、患者の近くの専門医がいる医療機関を紹介するなどの対応をとる。県内の600を超える医療機関にチラシを配布して周知したほか、県立中央病院呼吸器外科のホームページでもホットラインの概要を紹介している。21日昼現在で12件の問い合わせがあった。